

●発行者：財団法人安田火災記念財団 〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1

TEL03-3349-3130 FAX03-3349-3133 <http://www.yasuda.co.jp/foundation/> Eメール:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

平成13年度 社会福祉助成

「自動車購入費助成」の応募要領決まる！！

平成13年度社会福祉助成としてすでに実施済みの「NPO法人設立資金助成」(3,000万円)に続き、「自動車購入費助成」(10件・1,000万円)を実施します。応募要領は次のとおりです。応募用紙の請求は、当財団あてファックスで(03-3349-3133)。

＜応募要領＞

1. 助成対象者 * (1)～(3)のすべてを満たしていること
 - (1) 福祉活動を行う団体のうち、主として障害者の在宅福祉活動を行う団体
ただし、加齢に伴う障害者(高齢者)を除く。
 - (2) 西日本地区(中部・北陸・近畿・中国・四国・九州・沖縄、ただし新潟県・長野県・山梨県・静岡県を除く)に所在する団体
 - (3) 特定非営利活動法人、社会福祉法人の法人格取得を目指している団体、あるいは、既にそれらの法人格を取得している団体
2. 助成金額
自動車購入費 1件100万円まで(総額1,000万円)
3. 選考基準
 - ① 原則として購入予定自動車の車両購入価格は、助成金額の2倍以下であること。
なお、車両購入価格とは諸費用を含まない本体価格をいう。
(助成の際に、改めて車種・購入先をご相談させていただきます)
 - ② 将来展望を持ち先駆的な活動を行っている団体、既に活動実績のある団体を優先する。
4. 応募方法
 - ① 所定の申込書に内容記載のうえ、財団事務局に郵送する。
 - ② 募集期間 平成13年9月3日(月)～13年9月17日(月)まで(当日の消印有効)
5. 選考方法と助成時期
平成13年10月開催予定の選考委員会による選考を経て、12月下旬までに助成を実施する予定



「NPO法人設立資金助成」贈呈式の開催

平成13年度社会福祉助成「NPO法人設立資金助成」の贈呈式が、全国40カ所の安田火災の部支店により開催されています。お忙しい中、ご協力いただいた部支店の皆様に心から御礼申し上げます。8月15日現在、報告をいただいたマスコミ掲載記事をご紹介します。(主催の部支店・掲載紙・助成先)

1. 岩手支店・8/5 岩手日報 P.2	2. 秋田支店・7/13 秋田さきがけ P.2
3. 山形支店・7/20 山形新聞 P.2	4. 福島支店・7/18 福島民友 P.3
5. 金沢支店・7/10 北国新聞 P.3	6. 福井支店・7/18 福井新聞 P.3
7. 岐阜支店・7/4 岐阜新聞 P.3	8. 名古屋支店・7/25 中日新聞 P.4
9. 松本支店・7/26 長野日報 P.4	10. 愛知東支店・7/17 東海日日 P.5
11. 三重支店・7/10 伊勢新聞 P.5	12. 滋賀支店・8/4 毎日新聞 P.5
13. 京都支店・7/27 京都新聞 P.6	14. 奈良支店・8/14 奈良新聞 P.6
15. 岡山支店・7/6 津山朝日新聞 P.7	16. 長崎支店・7/25 長崎新聞 P.7
17. 佐賀支店・7/14 佐賀新聞 P.8	18. 鹿児島支店・7/25 大島新聞 P.8
19. 熊本支店・7/26 熊本新聞 P.8	20. 当財団・7/9 保険銀行日報 P.9

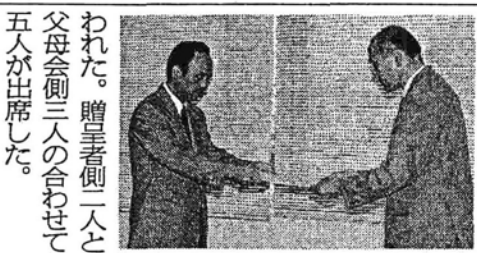
1. 岩手支店・8/5 岩手日報

・岩手県不登校を考える父母の会

不登校父母会の岡 NPO化後押し盛 安田火災が寄付金 財団法人安田火災記念財団(有吉孝一理事長)は三日、二〇〇一年度の民間非営利団体(NPO)法人設立資金助成金として、県不登校を考える父母会(本部盛岡市・島山俊樹会長)に三十万円を贈った。

助成決定通知書の贈呈式は盛岡市中央通り丁目の安田火災岩手支店で行

した。森合康和支店長が「一日も早く法人化を達成し、わが国の社会福祉に



〔島山俊樹会長①に助成決定通知書を贈る森合康和支店長〕
貢献されるよう期待する(とあいさつ)。島山会長は「早急に法人化の準備を進める。これまで以上に不登校に悩む親子を支えたい」と語った。

同父母会は早ければ〇一年以内に、遅くとも同年度内の法人認証取得を目指す。

2. 秋田支店・7/13 秋田さきがけ

・秋田いのちの電話

●秋田いのちの電話に助成金 財団法人安田火災記念財団は12日、秋田いのちの電話(佐藤悌理理事長、秋田市)に、NPO法人(特定非営利活動法人)設立資金として30万円を助成した。同財団は平成11年からNPO法人設立支援を目的として、毎年全国1000団体に対し、計30000万円を助成している。

3. 山形支店・7/20 山形新聞

・市民互助型在宅サービスかたくりの会

安田火災記念財団(有吉孝一理事長)の社会福祉活動に対する本県の助成先が、高島町元和田の市民互助型在宅サービスかたくりの会(佐藤敏子代表)に決まり十九日、米沢市の安田火災米沢支社で贈呈式が行われた。

同財団は、障害者や高齢者の在宅福祉活動などを行う団体を対象に助成。二年前から、特定非営利活動(NPO)法人設立を目指す団体に助成している。かたくりの会は、一九九八年四月に設立。ケアを受ける側も含め二百十人の会員でホームヘルプサービスを行っている。

かたくりの会に助成
安田火災財団 米沢で贈呈式

4. 福島支店・7/18 福島民友・障がい者自立生活支援センター



社会福祉助成金の贈呈式

船引町にある障がい者自立生活支援センターに對する安田火災記念財団(有善孝一理事長)の本年度社会福祉助成金贈呈式は十八日同センターで行われ、同助成金三十万円が贈られた。式では、安田火災海上保険福島支店長席教育役の伊丹新一さんが「NPO(非営利民間団体)の法人格を取付け、社会福祉の向上を図ってくださ」とあいさつ、同センタースタッフに助成金決定通知書を手渡した。

障がい者自立支援センターは、障害を持つ人の自立生活を支援する事業所で、小規模作業所も運営。現在、NPO法人化の認証手続きを行っており、認証取得後は介護保険の指定業者としての業務を行う予定。

引 福祉向上へ助成金
安田火災記念財団が贈る

5. 金沢支店・7/10 北国新聞・障害者自立センター

NPO設立資金
金沢の団体に助成
安田火災記念財団
財団法人安田火災記念財団は九日、金沢市神田一丁目の「障害者自立センター」にNPO法人(民間非営利団体)設立資金として三十万円を贈った。

同財団では昨年度から法人格の取得を目指す全国の障害者・高齢者福祉活動団体の中から百団体に社会福祉助成金を贈っている。全国の二百七十一団体から申請があった。

6. 福井支店・7/18 福井新聞

・ピハール福井

NPO設立支援へ
福祉団体に30万円
安田火災記念財団
民間の社会福祉団体への助成事業を進める安田火災記念財団は十七日、福祉NPO(民間非営利団体)「ピハール福井」(一乗康純代表)

贈呈式では、安齋英明安田火災海上保険金沢支店長が障害者自立センターの伊藤敏暁代表に助成決定通知書を手渡した。

贈呈式は福井市の安田火災福井ビルで行われ、同火災海上保険福井支店の岡崎和夫支店長が一乗代表に助成決定の通知書を手渡した。

同財団は一九七七年の設立から社会福祉助成を進めており、本年度の県内応募は三件あった。

ピハール福井は県内の浄土真宗本願寺派の住職らでつくる福祉団体。福祉施設への訪問交流を続け、このほど高齢者向けのサロンを開設した。七月中にも県からNPO法人の認証を受ける見込みで、一乗代表は「(助成金は)サロン活動や情報提供などに生かしたい」と話していた。

7. 岐阜支店・7/4 岐阜新聞・外出、介助サービス あんきや



「あんきや」にNPO設立援助金
安田火災記念財団

安田火災記念財団(有善孝一理事長)は三日、高山市江名子町にオープンした外出・介助サービスの「あんきや」(蒲池龍之助代表)に、NPO(特定非営利活動)法人の設立援助金として三十万円を寄付した。

同財団は毎年福祉団体への寄付を続けている。今年も高齢者・障害者福祉団体がNPO法人となるための資金援助に絞って、全国百団体に各三十万円を寄付した。

この日、「あんきや」開所式の席で贈呈式があり、安田火災海上保険の吉野恭浩高山支社長から蒲池代表に手渡された。写真。

8. 名古屋支店・7/25 中日新聞

・エスペランサ

県内4団体を助成
安田火災記念財団

安田火災記念財団の本
年度の社会福祉法人助成
に、県内から四団体が選
ばれ、二十四日、名古屋
市中区の安田火災海上保
険名古屋支店で、贈呈式
があった。助成金三十万
円を受けたのは、同市天
白区野並で小規模作業所

「ゆいまーる」を運営す
るエスペランサ。同支店
の伊藤勝行支店長が、倉
地和彦代表に手渡した。

県内では他に、アスペ
エルアの会（稲沢市）た
んぽほハウス（同）ふい
いる工房（豊橋市）が選
ばれた。ふいいる工房に
は十六日贈られ、稲沢市
の二団体は二十六日、名
古屋市で贈呈式がある。

9. 松本支店・7/26 長野日報・蓼科ハウス



財団法人安田火災記念財
団が、NPO（民間非営利
団体）の設立を目指す社会
福祉団体に贈る社会福祉助
成金の贈呈式が二十五日、
諏訪市の安田火災海上保険
諏訪支社であり、茅野市豊
平泉の在宅介護支援「蓼科
ハウス」の中谷真里子代表
に、助成金三十万円が贈ら
れた。

同財団は一九九九年（平成
十一年）度から、社会福祉
団体のNPO設立を資金面
で支援している。三年目の
今年度は全国の障害者、高
齢者福祉団体から二百七十
一件の応募があり、うち百
団体に各三十万円ずつ、計
三千万円の助成を決定し
た。

者を在宅で介護する人など
が困った時に、年齢や病状、
障害の程度に関係なく預か
る在宅介護支援サービスを行
っている。六月十三日付
で法人格を取得した。

贈呈式では、同社の吉沢
和男・松本支店長が大橋正
嗣・諏訪支社長の立ち会い
の下、助成金の決定通知書
を財団に代わって手渡し
た。中谷さんは「車いすが
積める送迎用ワゴン車の購
入資金に充てたい」と感謝
していた。

吉沢和男支店長から助成金
の決定通知書を受け取る中
谷真里子代表

蓼科ハウスに助成金

NPO設立資金面で支援

安田火災記念財団

ふいーる工房に30万円

安田火災海上のNPO助成



神谷さん(左)に助成金30万円を手渡す平澤支店長(右)

安田火災海上保険愛知の応募から四団体を認東支店(平澤昌彦支店定、助成金を出している)は、十六日午後一時から同支店九階サンフラ

から同支店九階サンフラから活動が確実に広がるで町的生活支援サービス、あるう団体を対象に助成金を出している。市民活動の先駆的な役割を果たした。に三十万円を贈った。

安田火災海上保険は、三年前からNPO(特定非営利活動団体)の法人立ち上げを応援しており、毎年全国で百団体、三千万円を助成している。今年も県下で十団体

ふいーる工房は、色のコーディネートというカラーリストの神谷さんが、二年前から高齢者施設や文化教室で養成講座を開いている中で知的障害者の人たちと知り合い、自分の仕事を役に立てられないかとボランティアで活動を開始したのがきっかけ。

豊橋市内の知的障害者(児)施設で出前養成講座を開きながら、色だけでなく音楽、演劇なども専門家が参加して十人体制で障害者支援と同時に家族のレスパイト(一時休息)にもしよう活動が広がった。

このため、NPO法人認可申請を行っており、八月末には正式に法人組織になる。神谷さんは「有償ボランティアですが、責任を持って指導していくためには法人化が必要で、申請費用などに役立てたい」と感謝していた。

民間福祉団体に30万円の助成金

津、安田火災記念財団

【津】安田火災記念財団(本部・東京都、有吉孝一理事長)は十日、津市栄町の安田火災海上保険三重支店でNPO法人設立資金の贈呈式を開き、同支店の西村康治支店長が、阿山郡伊賀町で活動する民間福祉団体「ふれあいステーション都美恵」(西村郁子代表)に三十万円の助成決定通知書を手渡した。

西村支店長は「地域社会の福祉向上に貢献してくださ」とあいさつし、西村代表は「活動のために、大事に使わせていただきます」と感謝の言葉を述べた。

「ふれあいステーション都美恵」は、地域の障害者や高齢者を対象にデイサービスや交流会、介護相談支援などを行う。

同財団は昭和五十二年に設立して以来、民間の社会福祉活動を助成しており、平成十一年からはNPO法人の設立



支援をしている。本年度は全国で二百七十一団体から申請があり、百団体に各三十万円の助成を決定。県では同団体が選ばれた。

【写真は西村支店長(右)から通知書を受け取る西村代表たち】

12. 滋賀支店・8/4 毎日新聞 ・ワイワイあぼしクラブ、 滋賀県難病連絡協議会

ワイワイあぼしと県難病連絡協議会 安田火災記念財団の 社会福祉助成金贈呈

安田火災記念財団の今年度の社会福祉助成金贈呈団体が決まり、県内からは、NPOワイワイあぼしクラブ(濱口弘代表)と、県難病連絡協議会(大島晃可会長)の2団体が選ばれた。NPO(特定非営利活動)法人設立資金として、各30万円が贈られた。

NPOワイワイあぼしクラブは、石部町内で知的障害者グループホームを運営するなど、障害者の生活を支援。県難病連絡協議会は、難病患者や家族の交流などを進めている。

【宇城野】

1 3. 京都支店・7/27 京都新聞

・京都市難聴者協会、 学生福祉活動団体コンポール、 福祉団体ネットワークすてっぷ

NPO 設立資金贈る

安田火災
記念財団
社会福祉3団体に



安田火災記念財団(理事長・有吉孝一安田火災海上保険相談役)は二十六日、本年度の社会福祉助成対象を決めた。京都府内では京都市難聴者協

会など三団体が選ばれ、中京区の同社京都支店で贈呈式が行われた。写真助成金は、全国の障害者や高齢者福祉団体に対して、特定非営利活動法人(NPO)の設立資金として各三十万円を昨年度から贈っている。本年度は全国の百団体を選んだ。京都府内で選ばれたのは京都市難聴者協会(岡崎安彦会長、京都市中京区)、学生福祉活動団体のコンポール(大浜徹代表、伏見区)、地域福祉団体ネットワークすてっぷ(尾崎百合子代表、長岡京市)の三団体。午後一時半からの贈呈式には各団体の代表者が出席し、杉下孝和支店長から助成金目録を受け取った。

1 4. 奈良支店・8/14 奈良新聞・エイズ資料館

エイズ資料館に助成金



決定通知書を受け取る稲葉館長(右)
=生駒市東松ヶ丘のエイズ資料館

安田火災記念財団が贈呈

贈呈式は、安田火災海上保険奈良支店の佐々木和博支店長らが同館を訪れて行われ、稲葉館長に決定通知書が手渡された。稲葉理事長は「いただいたお金を有効に使い、啓発活動に役立てたい」と話した。

同財団は、年間百団体に計三十万円の助成を行っている。本年度は二百七十一件の応募から、選考委員会による審査を経て、県内では同館だけが選ばれた。

同館は、薬害エイズで亡くなった人の遺品や、HIVに関する資料の展示を行っている。

昭和五十二年の設立以来、民間の福祉活動に支援を行っている安田火災記念財団(東京都、有吉孝一理事長)はこのほど、生駒市

東松ヶ丘のエイズ資料館(稲葉美代子館長)に、NPO(民間非営利団体)法人設立資金として、三十万円

・チャレンジハウスじゃがいもの木

県下で唯一選ばれる

安田火災記念財団「社会福祉助成」

上河原「じゃがいもの木」

財団法人・安田火災記念財団の「十三年度社会福祉助成」に、津山市上河原の「チャレンジハウスじゃがいもの木」(土井正義所長)が、県下で唯一選ばれ、四日、山下の安田火災海上保険津山支社で関係者が出席し、決定通知書の贈呈式が行われた。

分野で特定非営利活動法人(NPO法人)設立を計画している団体を支援しようというも。平成十年に「特定非営利活動促進法」が成立したことを受け、十一年度から社会貢献活動の一環として実施。以後、毎年度全国で百団体を選び、一団体につき三十万円を助成している。今年度は全国

から二百七十一件の応募があった。贈呈式では、伊藤征夫岡山支店長が「一日も早く法人格を取得し、地域社会で頑張っていただけじゃなく、頑張っています」と話し、決定通知書を土井所長へ手渡した。「じゃがいもの木」は自立生活研修施設。民家を活用し、宿泊をともなった模擬

生活を行うなどして障害者の自立生活のための支援活動をボランティアでしている。土井所長は「来春には充実した活動ができるようになると思う。障害者が自分たちが決めた人生

・ Cotton Plants

ボランティアへ助成金

安田火災記念財団 NPO法人化向け

【佐世保】安田火災記念財団(本部東京、有吉孝一理事長)は二十四日、特定非営利活動(NPO)法人の設立助成資金として、佐世保市ハウステンボス町の長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科のボランティアグループ「Cotton Plants」(佐世保)に三十万円を贈った。

同財団は民間福祉活動を推進するため、一九九九年からNPO法人設立資金助成を実施。既に活動実績があり、法人化する。 Cotton Plantsは民間福祉活動を推進するため、一九九九年からNPO法人設立資金助成を実施。既に活動実績があり、法人化する。 Cotton Plantsは民間福祉活動を推進するため、一九九九年からNPO法人設立資金助成を実施。既に活動実績があり、法人化する。

への貢献が一層期待される。本年度は全国で百団体、県内では Cotton Plantsの団体に贈呈。 Cotton Plantsは綿助教授とゼミの学生十五人で結成。障害者への生活全般の相談に応じる電話相談を同大内に開設。過去一年間で約百件の相談に応じている。



決定通知書を贈られる土井所長(中央)

を歩めるように手助けしていきたい。ありがとうございます」と感謝していた。



岡村支店長から助成金を受け取る綿代表(左)
一佐世保市光月町、安田火災海上保険佐世保支社

贈呈式で安田火災海上保険長崎支店の岡村正雄支店長から助成金を贈られた綿代表は「九月までに具にNPO法人設立を申請、十月から本格的な活動をしたい」と意気込

17. 佐賀支店・7/14 佐賀新聞・それいゆ

◇「それいゆ」に助成金

佐賀市

安田火災記念財団は、本年度社会福祉助成団体に県内から佐賀市高木瀬東の福祉団体「それいゆ」(古賀義人理事長)を選び十三日、同市神野東の同佐賀支店(関



活動助成の決定通知書を受け取る「それいゆ」の古賀義人理事長(左)

援センターの設立を目指しており、助成金三十万円は、特定非営利活動法人(NPO)の設立資金に活用する。式後、古賀理事長は「貴重な資金を有意義に使いたい。それいゆとはフランス語で太陽。太陽のように光り輝く団体を目指していきたい」と語った。

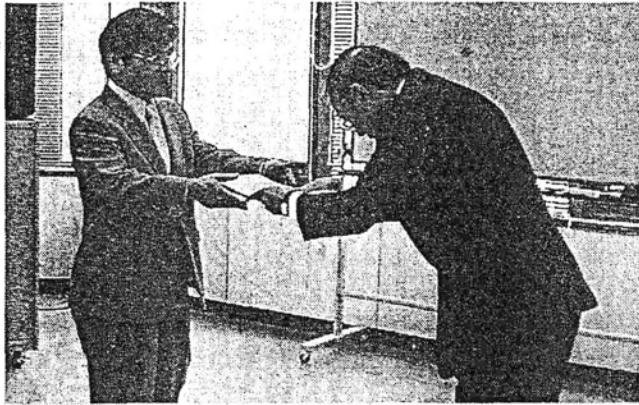
口健次支店長)で助成金を贈呈した。贈呈を受けた「それいゆ」は、グループホームをはじめとする自閉症のための生活支援センターの設立を目指しており、助成金三十万円は、特定非営利活動法人(NPO)の設立資金に活用する。式後、古賀理事長は「貴重な資金を有意義に使いたい。それいゆとはフランス語で太陽。太陽のように光り輝く団体を目指していきたい」と語った。

18. 鹿児島支店・7/25 大島新聞・奄美青少年支援センターゆずり葉の郷

「ゆずり葉の郷」に助成金

安田火災財団が奄美で初

8月下旬にも NPO 認可



内山理事長に助成金の目録が手渡された

(財)安田火災記念財団(会福祉助成金として全国(有)孝一理事長)は社のNPO(非営利組織)

法人申請団体への助成活動を行っているが、今年度の助成団体として、奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」(内山正一郎理事長)が奄美から選考された。奄美で同法人から助成を受けるのは、同団体が初めて。名瀬市の安田火災鹿児島支店奄美大島支店(二十四日、贈呈式があり、松崎則夫鹿児島支店長から内山理事長に目録が手渡された。安田火災記念財団は、安田火災海上保険株式会社の社会貢献活動の一環として一九七七年に設立された。当初は法人格の有無を問わず助成活動を行っていたが、九九年が

少年の健全育成に向け、力を尽くしていきたい」と述べた。現在、ゆずり葉の郷は名瀬市長浜町を拠点としているが、三浦さんは「相談件数の増加に伴い、現状のスタッフや拠点では十分にフォローできないのが現状。いずれは宿泊可能な施設の整備も実現したい」と話した。奄美ではこれまでに二団体がNPO法人格を取得している。

19. 熊本支店・7/26 熊本日日新聞
・全国言語障害児をもつ親の会

安田火災財団がNPO設立助成金

安田火災記念財団の2001年度社会福祉助成金の贈呈式が25日、熊本市花畑町の安田火災海上保険熊本支店であった。助成金は障害者、高齢者福祉団体を対象に、NPO(特定非営利活動)法人設立を支援するのが目的。檀原彰支店長が、県内で助成先に選ばれた「全国言語障害児をもつ親の会九州ブロック」(熊本市)の佐賀叡ブロック長に助成金30万円の目録を手渡した。同ブロックは九州・沖縄の難聴、言語障害児を持つ親を中心とする団体。地域と連携し、より社会性のある活動を展開するためNPO法人設立を目指している。



NPO法人設立へ資金援助

安田火災記念財団が36団体に

だが、有吉孝一理事長はあいさつの中で「当財団は小さな財団であり皆様とともに歩んで今日までできました。今回は助成式というよりも、交流の場と考えてもらえると幸い」とスピーチ。ぜひ、21世紀の市民活動の中核に成長してもらいたいと、激励した。



有吉理事長（写真上・右）が代表の日立市・日本自閉症協会茨城県支部・細川さんに決定通知を交付、写真下は贈呈式に出席した助成先の皆さん

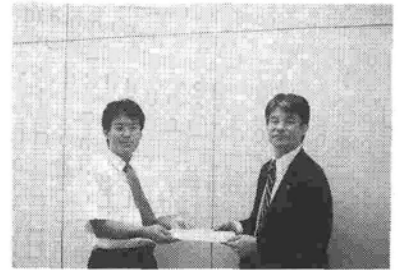
安田火災記念財団の平成13年度NPO法人設立資金助成関東地区贈呈式が4日、東京・西新宿の安田火災本社で行われた。関東地区1都6県の助成先は36団体だが、このうち33団体の52名が出席した。安田火災記念財団のNPO法人設立への資金助成は今年度で3回目の新しい活動

● マスコミへの掲載はありませんが、贈呈式の写真をお送りいただいた部支店をご紹介します。

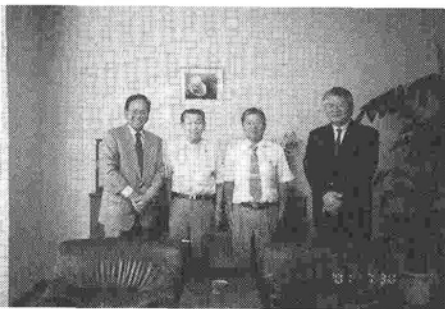
1. 仙台支店



2. 富山支店



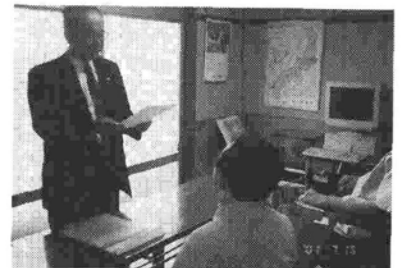
3. 長岡支店



4. 近畿総務管理部



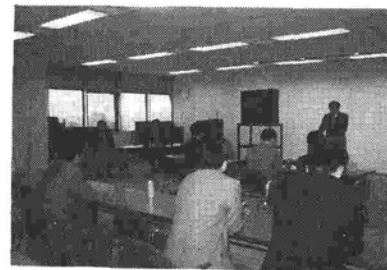
5. 愛媛支店



6. 北九州支店



7. 宮崎支店



「安田火災記念財団賞」記念講演会開催

7月14日（土曜日）午後2時より、安田火災名古屋ビル会議室にて、日本福祉大学と共催で「第2回安田火災記念財団賞受賞者記念講演会」を開催しました。当日は37度の猛暑でしたが、日本福祉大学（愛知県知多郡所在）の学生を中心に、社会福祉学に携わる約60名の方が熱心に聴講してくださいました。

講演は、著書部門受賞者の池本美和子様（『日本における社会事業の形成』日本社会事業大学助教授）、論文部門受賞者の北場勉様（『社会福祉法人制度の成立と今日的意義』日本社会事業大学助教授）、同部門受賞者の平岡公一様（『社会サービスの多元化と市場化』お茶の水女子大学教授）の順に受賞文献について解説いただきました。

講演会終了後の懇親会は、聴講者と先生方が自由に話せるよう設定し、講演内容および社会福祉学全般について活発な質疑応答がなされ、参加者から好評を得ました。

なお、当日の講演内容は、『安田火災記念財団叢書』にまとめ、後日発刊します。



8/2 インシュアランス



有吉孝一氏(述)

安田火災記念財団・理事長

若手・中堅の

魅力的論文・著書に期待

第2回安田火災記念財団賞受賞記念講演会は、日本福祉大学との共催で開催することができました。同大学の諏訪兼位学長をはじめ関係者に心からお礼申し上げます。

安田火災記念財団は、安田火災が昭和52年、新宿西口に本社ビルを建設した際、それを記念して設立した福祉関係の財団です。設立以来、①福祉諸科学に対する研究・出版に対する、ささやかな支援、それと障害福祉の第一線の実践をされている方々への助成という二本立てで、財団賞の審査委員長を務めていただいている三浦文夫先生はじめ皆様のご指導を頂きながら24年間活動を続けて来ました。

福祉分野も大きな変換期に来ているということで、平成11年に福祉助成の方を「NPO法人設立

助成」ということに切り替えまして、福祉諸科学の支援の方も、安田火災記念財団賞という福祉貢献表彰として始めました。

今回講演頂くのは、第2回目の受賞ということです。私は一昨年からこの理事長を務めており、全く福祉分野に対して、いかに自分が不勉強で関心を持たなかったかなと反省しております。

この記念賞の審査会、皆様ご承知の先生方ばかりですが、「門前の小僧」ではありませんが、臨席させて戴いて、そばで拝聴しておりました。延べ三日間、本当に熱心に議論されました。福祉学会の将来性、次代への期待、要請がいかに大きいかを感じながら拝聴しておりました。

三浦先生は、「むしろ論文として完成してなくても良い。大きな問題提起を含んだものを取り上げる事も考えてみたい。こうした方々と議論したいくらいだ」とおっしゃったのには感動しました。

私共の企画はささやかなものですが、先生方のご指導を頂きながら、こんごこの分野で若い学徒の方、中堅の方の魅力的な論文、著書がこれを刺激として出て来てくれたら、私共としては有り難いと思います。

—14日の安田火災記念財団賞受賞記念講演会から—

寄付金の御礼

- 次の方から寄付をいただきました。ありがとうございました。 中山 和彦 様